

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070401627		
法人名	社会福祉法人		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	北九州市小倉北区篠崎1丁目9番5号 (電話) 093-592-3605		
評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年5月17日	評価確定日	平成19年7月5日

【情報提供票より】 (平成19年4月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年	4月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	1人, 非常勤 9人, 常勤換算 4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4) 利用者の概要 (平成19年4月23日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	77歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松井病院、岸本内科クリニック、萩崎クリニック、岩井歯科診療所
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に立地し、法人併設の経費老人ホームと向かい合った形で建てられた事業所は、1階がデイサービスセンター、2階が事業所となっており、玄関は共有である。法人併設の事業所があることを有効利用し、納涼会、敬老会、忘年会や地域交流会等、事業所単独では行えない大きな行事を合同で行っている。また、利用者の個々の要望に応じて「今、したいこと」を、可能な限り支援している。外部講師やボランティアを迎えて多彩な趣味活動を行ったり、併設事業所職員の見守りの協力による外出の機会が多いことも特徴である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題の一覧表を作り、全職員で改善点と取り組みを明らかにして取り組んでいる。取り組みが容易な部分から改善を行い、速やかな改善が困難なものについては、計画を立てて段階的に改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員と共に項目の一つひとつ確認しながら、自己評価に取り組んでいる。また会議等で評価の意義について、全職員の理解を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、事業所の取り組み状況や外部評価の結果等を報告している。参加者からは行事のアイデアや情報等を聴取し、サービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族の訪問時に、職員はできるだけ家族の意見等を聴く機会を設けている。そこでの意見・要望を職員間で検討し、苦情受付ファイルに記載して、介護計画や事業所の運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入していないが、併設のデイサービスセンターの場所を借りて、事業所が中心となって地域交流を行っている。法人合同の行事には近隣保育園や近所の方にも参加を呼びかけ、地元の人々と交流することに努めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念ではなく、法人全体の理念となっている。	○	全職員で協議等を行い、地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議を開始する前に全員で唱和している。職員は理念の内容を理解し、日々のケアに活かしている。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していないが、併設のデイサービスセンターの場所を借りて、事業所が中心となって地域交流を行っている。法人合同の行事には近隣保育園や近所の方にも参加を呼びかけ、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価について、管理者は職員と共に取り組んでいる。外部評価については、全職員で前回評価での改善課題の一覧表を作り、改善点と取り組みを明らかにして取り組んでいる。また会議等で評価の意義について、全職員の理解を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組み状況や外部評価の結果等を報告をしている。参加者からは行事のアイデアや情報等を聴取し、サービス向上に活かしている。	○	今後は行政の担当者にも、運営推進会議への参加を呼びかけてはどうだろうか。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村への働きかけ、連携は積極的に行っていない。	○	行政との連携を図りながら、今後は介護教室や地域交流会などの開催を望みたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について外部研修を受講した職員は、会議等で全職員に周知を図っている。また、内部研修を実施している。家族にはパンフレット等を郵送し、電話や訪問時に制度の紹介を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族等へ利用者の健康状態等の報告を郵送している。金銭管理は収支報告書に加えて、同意書を同封し、同意の署名・確認印をもらっている。状態の変化時は、その都度電話連絡している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、職員はできるだけ家族の意見を聴く機会を設けている。そこでの意見・要望を職員間で検討し、苦情受付ファイルに記載して、介護計画や事業所の運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職を防止するため、職員の相談に応じている。やむを得ない異動や離職の際は、新任職員と利用者が馴染めるように、時間に余裕を持って引き継ぎ等を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用にあたっては、性別や年齢を理由に排除せず、意欲のある人を採用している。能力が発揮できるように職員の資格取得にも配慮している。		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	人権に関する外部研修を受講した職員が会議で資料等を配布し、全職員に伝達研修を行っている。		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員の内部・外部研修参加の機会を設けている。全職員が受講できるよう輪番制にする等、配慮している。ケアの実践を行いながら、資格取得を積極的に勧めている。		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会で情報交換や勉強会等で交流する機会を持ち、ネットワークづくりが行われている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用者・家族の状況に合わせて、見学や体験入居等、段階的に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者から生活の知恵や作法等を教えてもらう中で、共に支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の意向の把握に努め、それに沿って支援している。本人の意向の把握が困難な場合は、日頃の様子や何気ない会話から、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、本人や家族、医師の意見を含めて、職員・管理者・ケアマネジャーがそれぞれ意見やアイデアや意見を出して検討し、作成している。作成した介護計画は、家族から同意の署名を頂き、他の職員には朝礼等で周知している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月毎に関係者からモニタリングを実施して、介護計画を見直している。また、利用者の状態変化時には随時見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院した場合は、利用者の見舞いに出向いて病状や容態等を把握し、家族や医療機関と連携して、早期退院に向けた支援を行っている。本人や家族の要望に応じて、通院や送迎の支援を行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、入居時に話し合いの上、かかりつけ医での受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者の意向を大切にしながら、家族・かかりつけ医と話し合いを行って合意を図り、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に態度や声かけに注意し、排泄・入浴等はさりげない介護を心がけている。職員会議や朝礼で、利用者の誇りやプライバシーを損わないよう全職員で確認している。不適切な対応が見られた時は、職員同士で注意し合っている。また、個人情報保護法の内部研修を行い、理解を深めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかなスケジュールはあるが、その人らしい日々の生活のために、利用者のペースを大切にし、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が献立を作成しているが、月2回は事業所内で昼食の献立を作成したり、おやつを作る機会がある。利用者と職員は、一緒に調理、配膳、片付けを行っている。職員は利用者と同じ食事を一緒に食べ、和やかな食事をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等にあわせて、柔軟に対応して入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や興味等を活かし、習字・ドライブ・カラオケ等、役割や楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1～2回事業所の周辺を散歩したり、月2～3回、ドライブに出かけている。行き先は利用者が希望したり、職員が提案して決定している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけていない。職員は利用者の状態や外出傾向を把握して、併設事業所とも連携を取りながら見守りを行っている。玄関にはセンサーを設置している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、職員は周知している。年3回併設事業所と合同で、消防署の協力のもと避難訓練を実施している。また、事業所独自の火災訓練には、地域の人々と共に実施している。非常食等は併設の事業所で準備している。	○	非常食等は事業所独自でも準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を含め、栄養管理をしている。食事摂取量はチェックしてノートに記録している。水分摂取量は不足していると思われる利用者に対し、個別に水分チェック表を作り、こまめに水分摂取に努めている。利用者の状態等に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に、利用者制作の書や四季折々の絵手紙を飾っている。利用者にとって不快にならないよう、テレビの音量に配慮している。また、天窓を設置し、自然の光が入るように工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド・エアコン・カーテンが設置され、その他は利用者の馴染みの家具や小物等を持ち込んでいる。その人らしい個性を尊重し、居心地のよい空間となっている。		

※ は、重点項目。